

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設5年目となり、利用者の方が地域に根ざし、生々と生活されるよう支援するには何が必要かを模索。	○	地域の老人会、誕生日会などに参加できるよう、家族に働きかけを行う。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症の方々が、その人らしく生活できるよう、個別対応が必要であることを、日々のミーティング勉強会を通して、全スタッフが理解できるようにしている。	○	高齢化していかれる入居者の方々の支援を通して、今後の高齢化ターミナルに対応できる支援(家族との話し合い)、主治医との連携を取りながら提供していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入口正面に理念を掲示し、いつでも見られる。又、面会時や見学時においては、理念を説明している。地域のイベント等に参加できるよう、送迎、同伴しながら支援している。	○	運営推進会議には、家族代表、行政代表、地域代表、民生委員の方々に参加していただき、たかみねの里の理念が理解していただけるよう、又、地域へ出ていかれることにより認知症の防止になるよう、支援していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域のお祭りなどの時には、みこしが立ち寄っていただいたり、農家の方より野菜をいただいたりする。散歩の時など、会話をしています。	○	近隣とはトラブル等はなく、日常生活を送っている。行事への参加の呼びかけを行うことにより、当施設を知っていただき、身近な施設と思っただけよう努力したい。見守っていただければ、災害時等、協力を得られることができると考える。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアでチューリップの球根植えに参加したり、又、ボランティアの方の参加でクリスマス会等のイベントを行っている。保育所の園児も、毎年七夕の日に来てもらって、利用者様と交流していただき、心和む時間を過ごさせていただいている。		広報紙などを利用して、日頃より情報を得られるようにしたい。利用者の方々が参加可能な活動や楽しめるイベントには参加できるようにして、地元の人々と交流できる機会を多く作っていきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、認知症の周知をしていくには、当事業所の職員の力が役立つのではないかと話し合っている。		学校や集会所における、分かりやすい認知症についての勉強会(看護師が多く働いているため)。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かして、改善できる所は行った。 (例)各部屋に乾湿寒暖計を取り付けた。		より快適に日常生活を送っていただけるように、ホーム内環境を整えている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議において、その間の行事報告や研修報告、家族からの意見をいただいている。 又、家族やスタッフと一緒に、認知症勉強会を設け、サービスの向上に活かしている。		推進会議には、出来るだけ多くの家族に参加していただけるよう、早目の声かけをしていきたい。 又、多くの意見をいただき、その意見をもとにサービスの質の向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険手続き等、市町村に行く事は頻回にあり、そこで市町村独自のサービスなどを知るようにしている。		継続したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知機能の低下により、判断が出来なくなった方など、成年後見制度を利用している方が1名おられる。		職員自身が、権利擁護や成年後見制度について知識を学習し、必要な方がおられた時には、それらを活用したい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会において話し合ったり、言葉の注意などその都度行っている。 新しい入職者には、再度説明し防止に努めている。		研修等の機会を設け、当施設ではそのような行為が発生しないよう理解を深めていきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定までには電話での相談、見学、試し入居などの過程を行う。 ゆっくり話を聞き(不安や希望等)、充分検討した上で入居決定していただくよう伝えている。	○	利用者について、短期間で解約した方は無く、「ここでよかった」「どこへも行きたくない」などの声を聞く。 その度にもっと生活しやすいホームにしなければと思う。 更なる質の向上を図りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書内に当施設の苦情受付担当者及び責任者を記載している。外部(広域連合)等いつでも電話できるようにしている。話しやすい雰囲気作りをして、どんな小さな意見でも聞く姿勢でいる。		苦情解決は介護サービスの向上、充実につながるどんな小さな事でも真摯に受け止め、解決できるよう努力したい。 ご意見箱については、今後も設置し続けたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる家族の方には、その都度毎日の生活経過など報告している。 又、遠方の方には手紙により状況報告やレクリエーションの写真(たかみねの里だより)など毎月1回送っている。	○	手紙だけではなく、電話による報告も今後していきたいと思う。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大きな苦情は現在まで無いが、契約書内に当施設の苦情受付及び責任者を記載している。 外部(広域連合)等いつでも電話できるようにしている。	○	継続したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回施設長参加によるミーティングを行っている。 業務や備品等色々な意見を出し合い、サービスが安全に提供できるよう話し合っている。		継続したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴日やサービスが集中する日については、スタッフの配置を多くする必要があり、勤務の調整を行っている。 外出や受診、買い物代行などの個別サービスに対応できるよう、経験年数の多い男性スタッフを配置している。		今後も継続したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとに介護担当者を決め、責任を持ってサービスの提供や評価を行っている。 代わる場合は、担当者を2名にするなど配慮している。		今後も継続したい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	管理者が採用を決める。採用条件の中にあれば、性別や年齢制限は無く、職場が必要とする人材であれば良い。 職員には研修等に積極的に参加するよう、働きかけている。		継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権については、町より配布される資料で学習する機会をとっている。		介護サービスにおいては、人権を守ることは重要なことであるため、研修等に参加する。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設運営に必要な資格取得について、希望者については取得している。 新人にはプリセプターを付け、又、看護師、介護福祉士が指導にあたる。		新人向けのマニュアル作りをしていきたい。 又、理解力を知るためのリスト作りも行いたい。 分からないところがあれば、その時に指導を行い理解していただいている。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H21年4月より大任町内福祉施設の交流会を発足し、火災時のスプリンクラーの件、新型インフルエンザ等の情報交換する。 お互いに質の向上を目指している。		交流会は3～4ヶ月に1回、各施設を回り行う予定である。 この交流会を通し、お互いの施設の良いところを取り入れたり、研修会等を通してサービスの質を向上させ利用者によりより支援を行っていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表を作成する時、休み希望を取り入れ、夜勤、公休をなるべく入れ、十分な休息が取れるよう配慮している。 スタッフ間の親睦を深める為、年に数回食事をやっている。		継続したい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の仕事や功績等について評価できるよう、時々職場に出向いている。 勤務状態を見て、年2回報酬を出すなど向上心を持って働けるよう努めている。		継続したい。
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居契約前には、可能な限り利用者本人や家族と面談し、困っていることや不安なことを聞き、当施設に入居された場合解消できる場合に契約している。		入居前に細かく説明し、情報提供するとともに利用者の相談内容を把握し、利用者が求めている生活が当施設でできるかを検討した上で契約する必要がある。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族にも同様に入居契約前には可能な限り、家族と面談し困っていること、不安なことを聞き、当施設に入居された場合解消できる場合に契約している。		入居契約書を手元に、当施設で家族の希望にお答えできるか充分検討し案内をする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で不可能と判断した場合は、他の福祉サービスについて説明を行い、利用を薦めている。		継続したい。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	しばらく利用者の生活習慣や性格の傾向、病態、ADL等を観察し、必要な日課以外にはすすめず、ゆっくりと生活するようにしてもらっている。 自然な形でスタッフを介して紹介し、気の合いそうな利用者との交流できるよう配慮している。		慣れない環境には、だれでも不安いっぱいである。 入居初めは相談を受けたスタッフが中心となりコミュニケーションをとるなど配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様は人生の先輩方であり、いろんな事を学ばせてもらっている。又、昔の事を教えてもらったり、戸外散歩で美しい花を共に発見した時など、私達は共に生きている事を実感する。		入居者とスタッフの関わりが多くなることで、入居者の個性を把握できると利用者からの信頼を得ることができ、サービスも提供しやすくなる。 入居者とともに過ごす時間を大切にしていきたい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者のみだけの支援でなく、悩みを抱えた家族の相談にのることが入居者を取り巻く問題解決につながり、又、家族との信頼関係を築いている。		面会に来られた時に、心配事はないか、入居者の日常生活を知らせることで、本人、家族を支援している。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症が重症化してくると、家族関係が悪くなる事が多いが、施設が間を取り持ち、家族の介護疲れを解消し、出来る限り両者が良い関係を維持出来るよう努力している。		認知症の方が、施設に慣れるに従い、笑顔がみられるようになれば、家族も安心されほっとした表情で施設を後にされる。本人と家族のよりよい関係作りを目指し、支援していきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や、地域の老人会の参加など、希望があれば送迎及び同伴している。		継続したい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の疾病の種類や心身機能、性格、個性等様々であるため、人間関係が円滑にいくよう、何か問題があれば早期に対処し、入居者間の関係が悪化しないよう注意している。		入居者が精神的に安定して生活出来ているかを確認するには、日常的に入居者の心身状態を注意して観察する事が重要である。不安感やストレスは心身状態に影響するので、観察力を養い、支援技術を磨く必要がある。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の退所後、利用者家族等から介護相談等があれば、適宜応じている。		継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族より情報を得る事により、課題分析を充分に行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		継続したい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握するよう努めている。 前回のケアマネより、情報を得ることに努めている。		継続したい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人家族より情報を得ることにより、課題分析を充分に行い、一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		継続したい。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護サービス原案は課題分析を行った結果に基づき、施設介護支援専門員が作成し、利用者、家族、サービスに携わるスタッフの意見を聞き、同意を得た上で決定となる。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し以前に対応できない変化が起こった時、介護計画に色を変え、現状に合った計画を付け加えている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録用紙にサービス計画用紙をひとつにして、情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		個別支援をより充実させていけるよう、日課表に細かく表記していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊や外出など、希望時に応じている。 外出同伴についても、希望時に行っている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	誕生日会には、日本舞踊や唄などを披露していただいている。 年2回の火災訓練に1度は消防署の職員の指導を受けている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族希望時、または身体状況の変化があった時は、他の施設、病院等のケアマネジャーやソーシャルワーカー、行政の方々と話し合うようにしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、今のところ協働していない。 施設入居についての相談には応じている。		必要性に応じて利用したい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、全員定期的を受診し、健康管理を受けている。 主治医より指示を受けて、適切な医療を受けられるようにしている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科主治医と連携を取りながら支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設に看護師が多数おり、相談しながら、又、近隣の医療施設の看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時も、常に面会を心がけ、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		精神状態が不良に陥った場合など、病院関係者との連携により症状安定を支援し、早期退院を目指している。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族、かかりつけの主治医等で充分話し合い、全員で方針を共有している。		終末期支援について、早い段階より家族や主治医と常に話し合い、支援している。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームドクターとの連携を取り合い、電話での対応を取っている。 又、家族との電話報告を密に行い、対処している。	○	施設での最後を希望されている利用者、その家族は数名いらっしゃる。医療処置において、施設で対応できる範囲であれば、終末期においても入所継続可能で、急変時の対応をどのように望まれるか、本人家族の意思を尊重する。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が移り住むことがない、家族との話し合いを持っている。		利用者の心身の状況を考慮し、最も適した環境での生活を関係者間で相談し、これからも継続したい。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人差を把握しながら、介護に努めている。言動には注意を払っている。		接遇など学習会を繰り返し行い、徹底していく。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意見を聞くようにしている。	○	利用者の希望を尊重していくと同時に、今後も学習会を計画し習得していきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて介護に努めている。 気分や体調を考慮し、他の方への影響のない範囲で時間変更している。	○	朝食は、もう少し後で、という方が数名いらっしゃいます。方々の睡眠状況など考慮し、出来るだけ一人ひとりのペースを大切にしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	支援している。 行けない人は、ホームで行っている。 近くの美容室を利用し、迎えに来ていただいている。		継続していく。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人は行っているが、出来ない人が多い。		ごく数名の方が、テーブルを拭いたり、茶碗を片付けたり、職員と行っている。 つくしやわらびなど、採取したもので、季節感のある食事内容も継続したい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族と話し合い、希望が叶えられるようにしている。 喫煙者はいらっしゃらない。		身体に影響ない程度に楽しんでもらえるようしている。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導も、声かけをしながら進めていき、排泄後は熱いタオルで清拭している。 排泄チェック表を作成している。		継続していく。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、個々に合わせて入浴できるようにはしている。	○	便、尿失禁時は、シャワー浴実施しており、今後も継続したい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者さんが望まれるよう、休息されている。		日課はおおまかに決まっているが、個々の希望に合わせて、就床してもらっている。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ものを作ったり、なるべく参加できるようにしているが、利用者さんの意欲が見受けられないことがある。		行事計画を立て、なるべく全員参加できる内容を考えている。 本人の意思確認をしながら、援助していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーに買い物に行ったり等、外出時使えるようにしている。	○	金銭管理ができない方がほとんどであるが、希望の買い物は出来るよう支援したい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声かけをしている。 天気の良い日は、30～40分散歩をしている。 受診や買い物等へ同伴している。	○	継続する。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事計画を立てて、梅見、桜見、藤の花、菖蒲園等へ出かけている。	○	毎年実施していきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レターセットなど、手作りのものを用意している。		電話の取次ぎなどを行い、家族の方との会話も大切にしている。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室やホールで談話できるよう声かけし、ゆっくり時間をとれるようにしている。		継続したい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止規定に従い、緊急時ややむを得ない場合のみ行うこととしている。切迫性、非代替性、一時的かこの要素を検討した上で、家族の同意を得て行っている。ベッド柵と車イスの安全ベルトをやむなく使用している。	○	継続したい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	閉鎖的なことはしない。 開放的にしている。 面会者も自由に入って来れるようにしている。		継続したい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールでの過ごしが多いので、人員確認がいつも出来るようしている。	○	夜間、鍵をかけて休まれる方がいらっしやらない為、巡視で安全確認を行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものはなるべく目に入らないよう、配慮している。 必要時は同席させてもらうようにしている。		危険が生じた場合は、直ちに検討していきたい。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホールでの水たまり、歩行時邪魔にならないよう、物を置かない。	○	マニュアルを活用しながら、推進会議などで地域連携を取りながら継続していく。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを掲示している。		訓練していきたい。 (様々な事故を想定し、対処できるよう)
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の訓練は定期的に行っている。 隣家とは、挨拶を交わす程度だが問題はない。	○	地域の方とも情報交換など行っていけるようにしたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時、説明。 文書にて説明し、サインしてもらう。		個人のリスクについて分析し、回避できるよう対応していきたい。 本人の意向に沿って生活していただくことを、一番としたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルのチェックをし、看護師への報告をする。		継続していく。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師との連携を取っている。 日々の変更も申し送りで職員全員に周知するようになっている。	○	医療連携を行い、健康管理を行っていきたい。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	声かけや散歩等、工夫し、食事内容は食べやすく消化の良いものを提供できるよう努力している。 ラジオ体操も取り入れている。	○	継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯ブラシや、訪問歯科にてチェックしてもらう。		継続したい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	シートに記入し、管理している。 定期的な血液検査の結果を参考にして、確認している。		個々の食思を把握し、意見を聞きメニューにも取り入れていくよう努力していきたい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い実践はもちろん、1日4回の拭き掃除を行っており、次亜塩素水を使用したりしている。 感染症多発時期は、特に注意し予防接種等も積極的に受けている。		看護師を中心にマニュアルに沿って、これからも学習を続けたい。 敏速な対応が出来るよう、情報収集を行っていききたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手順を徹底して行い、衛生管理を行っている。		継続したい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲には田んぼ、水路がある為、事故防止のためにも塀を設置しているが、門は常時開けてあり、出入り出来るようにしてある。	○	庭には花や木が植えられ、季節を楽しめるようにしています。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に、トイレの清潔に心がけている。 季節に応じた壁飾りを飾ったり、花を挿したりと、配慮している。		継続したい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、食卓以外にソファーやこたつを置き、自由にくつろげるようにしている。 庭を眺めていただくテラスもあります。		継続したい。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしています。 必要なものは、本人様、家族と相談し購入します。		継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置したり、エアコンの調節をしたり、換気を行うなど、快適空間を維持できるよう努めている。 次亜塩素水にて掃除は徹底努力している。		継続したい。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通行の妨げとなるものは置かないようクローゼットを活用し、洗面、手洗いをしやすいよう自動手洗いにしてある。 トイレは全てウォシュレット設置。	○	継続したい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認知的理解度を知り、個々に応じた介助を行う事で、混乱や失敗を防ぐ努力をしている。		各お部屋には、それぞれに合ったお花の飾りなどを付け、ネームプレートを作っています。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターや草花を設け、時には収穫したりして楽しんでいる。 自然が多い為、活用している。		継続したい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない